

**令和元年度
アレルギー疾患都道府県拠点病院モデル事業
報告**

藤田医科大学ばんだね病院



① アレルギー疾患患者や家族に対する相談対応

効率的かつ質の高い相談窓口体制を構築した。
特に重要な情報は広く公開し迅速に有益な情報提供可能な体制を構築する。

●メールでの相談窓口

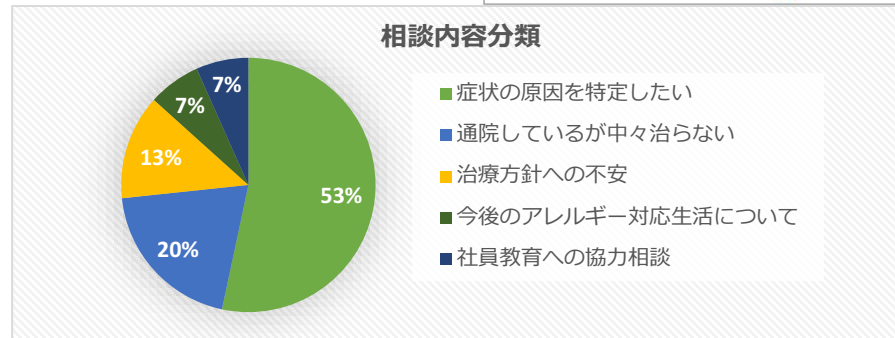
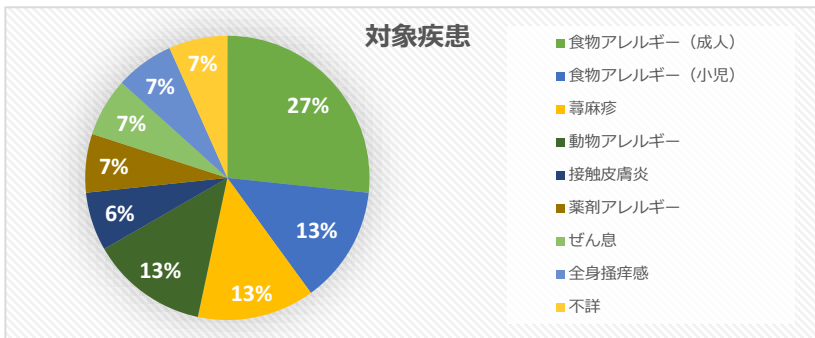
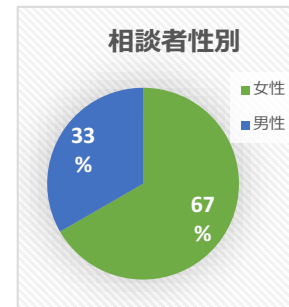
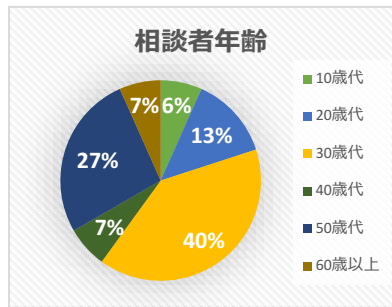
当センターのWebsite内にメールでの相談窓口を設置。

県内の拠点病院や愛知県下の患者会と連携し迅速で的確な回答を行う体制を構築。

相談窓口の周知とともに、得られた質問事項を分析し、同様な質問については、Q&A集としてまとめるなど、広く一般の方々への情報提供となるよう努めている。

<相談実績>

- 期間：2020年4月～11月末
- 件数：15件
- 特徴：
 - 食物アレルギーに関する相談が多く、特に成人例が多かった。
 - 症状の原因が特定できていないことへの不安感が大きい印象を受けた。



●セカンドオピニオン外来

医療に直結する相談については、原則病院内で小児アレルギーエデュケーター（PAE）を中心としたコメディカルが細かく対応しているが、より専門的な医療相談を希望される場合は、セカンドオピニオン外来を設け、対応している。

**特に成人について相談を希望する人が潜在的に多いことがわかった。
相談窓口の周知徹底および医療機関が積極的に情報提供を行うことが必要だと考える。**



②地域の医師に対するアレルギー疾患研修会の実施



質の高いアレルギー診療の均てん化を目指し、アレルギー専門医の育成、非専門医への教育を実施。チーム医療の育成・充実のため、コメディカル等に対し、さらには教育関係者等への教育も行っている。

●トレーニングコースの開設、受入

トレーニングコースを活用し、愛知県におけるアレルギー専門医の偏在の解消、非専門医への教育による質の高い医療連携体制の構築にも繋げている。2020年度は、小児科、総合診療科の**医師2名**が受講。

医療従事者、教育関係者の自己学習向けDVD配布



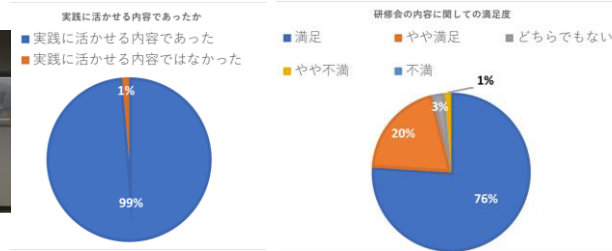
藤田医科大学総合アレルギーセンタートレーニングコース内容



●アレルギー疾患に関する動画の制作

研修会やトレーニングコースに参加できない医療従事者のため、また教育関係者や一般の方にも気軽にアレルギー疾患が学べるよう人材育成・情報提供のための動画を制作し、多数のコンテンツをインターネットで配信した。また、各医療機関等での教育にも活用できるよう配慮し、動画をDVD (**2,000枚**) にして配布。

7/19開催薬剤師向け研修アンケート(74名参加)



●薬剤師向けアレルギー研修会の開催 (年4回)

アレルギー診療はチーム医療 (多職種連携) が重要であり、特に薬剤師は患者と直接対面し、薬剤使用の適切な説明が必要であることから、主なアレルギー疾患である、アトピー性皮膚炎、喘息、食物アレルギー、アレルギー性鼻炎・結膜炎に焦点を当てた研修会を開催した。(7月74名、11月112名参加)



●母子保健医療に携わる栄養士・保健師・看護師向け研修会の開催

アレルギー疾患の重篤化を防ぐためには、乳幼児の段階で適切に介入することが重要である。よって、保健師、栄養士、看護師を対象としたWeb研修会を、他の県拠点病院のひとつである“あいち小児保健医療総合センター”と連携し、開催にむけ準備を進めた。(2021年度春実施予定)

藤田医科大学アレルギー勉強会



愛知アレルギー実践セミナー



●地域の医療従事者を対象とした研修会・検討会の定期的な実施

『愛知県のアレルギー診療を考える会』小児科領域 2020年2月開催 (**42名**参加)
『藤田医科大学アレルギー勉強会』2021年1月開催予定
『愛知アレルギー実践セミナー』、『アレルギーケア看護師育成プログラム』等の実施

専門医・非専門医向けの研修は充実してきたが、コメディカルへの教育は今後充実させていく。





③アレルギー疾患に対する情報提供

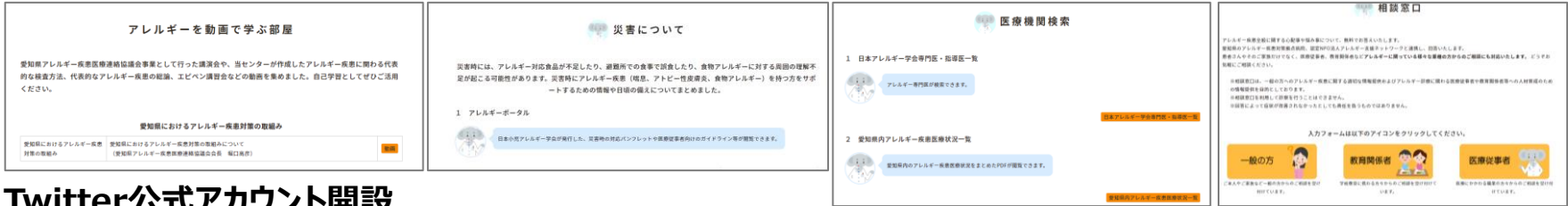
最新かつ適切な情報提供を継続する。

●情報発信のためのWebページ『アレルギー情報ステーション』開設

食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、ぜん息について、疾患の特徴、診療の流れ、検査、治療などが一般の方でも分かりやすいように解説したページを作成。各アレルギー疾患について、患者自身が、自覚症状から、疑われる疾患や、それに対する検査法、さらには治療法についても確認できる。また、アレルギー疾患に関わる“正確な内容”の動画を一望できるページを作成し、それでも分からない内容は相談窓口から問い合わせることも可能。



各種コンテンツ



●Twitter公式アカウント開設

Webサイトによる受け身での情報提供だけでなく、新たに開設した公式Twitterにより、積極的にタイムリーな情報発信（新薬の情報や季節毎のアレルギー対策など）を行うことで、より多くの方に幅広く情報が発信できるよう配慮した。（137フォロワー、月8,676インプレッション※2020年4月~10月平均）



●食物アレルギーの子どもの栄養や献立に関する悩みを解決するコンテンツ制作

食物アレルギー児の親の大きな悩みのひとつである、栄養や献立に関する悩みの改善を目的に、食の大切さ、栄養価を考慮した食物アレルギー対応レシピなどのWebsiteコンテンツを作成している。食物アレルギーと上手につきあい、その子どもが健やかに成長できるよう、患者会、食品企業、医療現場など様々な角度で情報を持ち寄り、あるべき論ではなく、具体的に実践できる内容となるよう配慮している。（2021年度春アップ予定）

Websiteを見て来院する患者が増加した。 [2019年度実績] 食物負荷試験：2,078件、皮膚テスト（プリックテスト394件、パッチテスト363件）
肺機能検査：1,332件、呼吸抵抗測定1,217件、呼気ガス試験569件





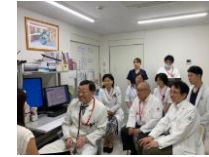
④アレルギー疾患に係る診断等支援

アレルギー専門医を中心に、かかりつけ医、拠点病院が効果的につながった医療提供体制の構築を目指す。

● 合同診療

他院と同様な各科での各診療科との連携による医療提供だけでなく、特に難症例・特殊例においては各診療科の医師による『合同診療』を週1回行っている。

合同診療



愛知県のアレルギー診療を考える会



● 『愛知県のアレルギー診療を考える会』の開催

『愛知県のアレルギー診療を考える会』を開催し、診療科ごとの愛知県全域でのあるべき医療連携の形を構築する。

2020年2月に小児科領域にて開催し**42名**の医療従事者が参加した。2021年度は呼吸器領域、皮膚科領域で開催する予定である。

ここで議論した「あるべき姿」については、当センターWebsiteで広く公開するとともに、愛知県医師会等の関連団体との連携を深め、実現を図る。

● 愛知県におけるアレルギー疾患の実態調査

愛知県におけるアレルギーの罹患状況や医療の実態を把握するため、愛知県にある健康診断のクリニックと連携し、実態調査を実施している。

具体的には、愛知県在住の約6万人にアンケートを配布し、**約1万人分を回収、集計・分析**を行っており来年度報告予定である。

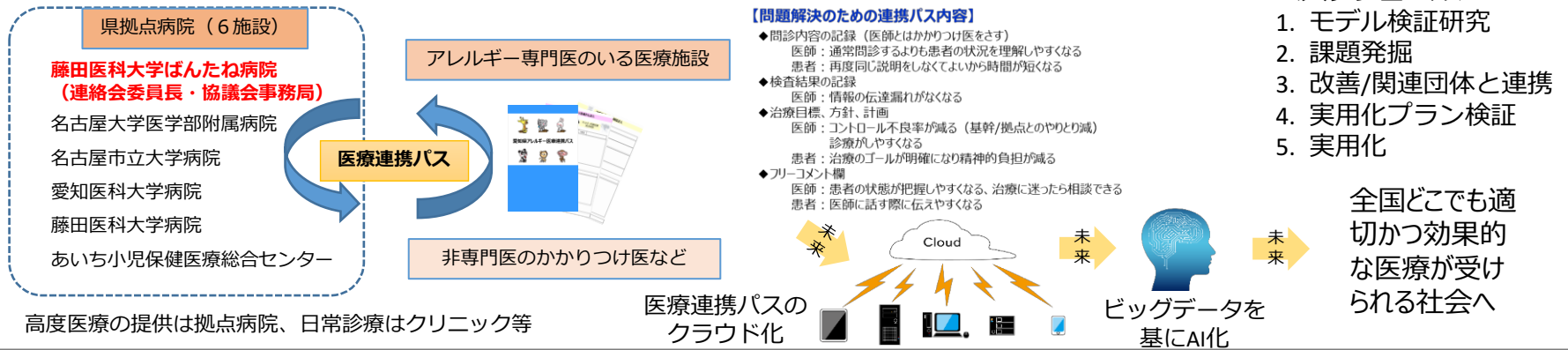
把握した愛知県のアレルギー疾患の実態に合わせた診療のあり方を模索するとともに、愛知県に最適化した医療連携体制、人材育成、情報提供等にも活用する予定である。

あるべき姿の実現を目指した取り組みの一例として

● 診療情報の共有・円滑な連携のための医療連携パスの作成と運用

愛知県の6拠点病院での多施設共同研究として、『医療連携パスによるアレルギー診療の質・患者満足度向上に関する検討』を開始。

※ 拠点病院を中心に、県内のアレルギー専門医（303名）との相乗的な医療連携を目指す



新型コロナウイルス感染拡大の状況下で進捗が鈍かったが、今後はデジタル化等、実施方法を検討し推進していく。

